



# ぎょうだ 古墳めぐりの旅

## 「古墳めぐりの旅へようこそ！」

行田市には埼玉古墳群をはじめとする 10 もの古墳群があり、150 基以上の古墳が確認されています。古墳は古代の権力者のお墓で、その大きさが築いた者の力を表わしていると考えられています。

行田市内では、今から約 1,500 年前の5世紀末頃に稲荷山古墳を皮切りに埼玉古墳群が築かれ始めると、各地で中小の古墳が築かれ始めます。大日塚古墳はその頃の小円墳で、埼玉古墳群を築いた強大な権力者に従う小地域の権力者のお墓と考えられています。

ところが6世紀後半になると真名板高山古墳、小見真観寺古墳など 100m級の大型前方後円墳が周辺地域でも築かれるようになり、

埼玉古墳群では浅間塚  
若小玉古墳群ではより  
えます。その後埼玉

埼玉古墳群の古墳は大きさがやや小さくなって行きます。7世紀に入ると古墳、白山古墳、戸場口山古墳など円墳、方墳が築かれますが、大型の八幡山古墳が築かれており、力関係が逆転したことがうかがえます。古墳群は途絶えてしまい、若小玉古墳群では7世紀後半の地藏塚古墳まで、古墳が築かれ続けました。

どうして埼玉古墳群は衰えてしまったのでしょうか？それに代わってどのような権力者が現れたのでしょうか？古墳をめぐりながら、あなたも考えてみてください。

